

■部会 Report

技術部会 洋上風力WGの活動紹介

洋上風力WG グループリーダー 柏倉 博
大成建設株式会社

はじめに

本年、2008年から、いよいよ京都議定書の第一約束期間が始まります。日本でも温室効果ガスの削減目標（1990年比で6%の削減）達成に向けて、様々な取り組みが実施されています。

2005年4月に閣議決定された「京都議定書目標達成計画」には関連各分野における対策が盛り込まれていますが、そのひとつに「新エネルギー対策の推進」があります。目標達成計画では、「新エネルギー対策の推進」によって、年間4000万トン以上の温室効果ガス削減を目指しています。

このなかには、当然、風力発電も含まれているわけですが、政府の新エネルギー導入目標において、風力発電は2010年までに300万kWとされています。

しかし、この目標の設備導入量は、一部港湾部の施設は含まれますが、いわゆる洋上風力は対象となっていないようです。

NEDOは風力発電導入のロードマップを作成し公表しておりましたが、洋上風力の導入目標は政府方針ではないということで、現在はホームページに掲載されていません。

このような状況のなか、昨年度（平成18年度）、NEDOより「洋上風力発電導入のための洋上風況精査に関する調査」および「洋上風力発電導入のための技術的課題に関する調査」の2件の委託調査が実施され、当協会も会員企業と連名で「洋上風力発電導入のための洋上風況精査に関する調査」を受託し、調査を実施しました。また、今年度も、NEDOより「洋上風力発電実証研究F/Sに係る先行調査」が公募となり、現在、受託企業が調査を実施中です。

さらには、来年度以降、政府が洋上風力発電の実証研究を実施するという話も聞こえています。

このように、洋上風力発電を取巻く状況も、ここ2年程で大きく変わりつつあります。

欧米では、加速的に導入が進む洋上風力発電日本でも、日本の気象条件に合った洋上風力の導入が望まれるところです。

今年度の活動方針

当WGは、活動を開始して以来一貫して日本での洋上風力発電の実現を目指してきました。

すなわち、日本の洋上風力発電が実現するためには何が課題なのか、あるいは、実施したらその適地はどこなのかなど、さまざまな研究を実施し、また必要に応じ、NEDOとの情報交換をしております。

洋上風力発電の実現において大きな課題の一つが、「どこで」実施するかということであり、利害関係者との調整がうまく行くかどうか事業実現の一番の課題となると考えられます。

そこで、当洋上WGでは、政府がモデル実証事業を実施するところから洋上風力発電はスタートすべきであると考えています。政府が実現への道筋を一つ示せば、民間事業者も参入しやすくなります。

ただし、一部の民間風力発電事業者には、政府の動きを待たず、独自の方法で事業化を目指している企業もあるようですが……

当WGでは、本年度、洋上風力の利害関係者に関する情報収集を主とし、導入促進への道筋を見極めたいと考えております。

おわりに

化石燃料のコストが安いのは、その社会に与える影響（温室効果ガスの放出）が正しく評価されていないからであり、風力発電などの再生可能エネルギーが高コストだというのは、いかなものか、と個人的には思ったりもしますが……（余談）

京都議定書の第一約束期間が始まったばかりですが、それ以降（ポスト京都）においてもより一層の排出削減を進めなければならないのは必至であり、これに関連して風力発電も陸上・洋上を問わず、益々導入が進むものと確信しております。